

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	13-107	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Drinking patterns of older adults with chronic medical conditions. 慢性疾患を有する高齢者の飲酒習慣について		
執筆者		
Ryan M, Merrick EL, Hodgkin D, Horgan CM, Garnick DW, Panas L, Ritter G, Blow FC, Saitz R		
掲載誌		
J Gen Intern Med. 2013 Oct;28(10):1326-32. doi: 10.1007/s11606-013-2409-1.		
キーワード		PMID
飲酒、慢性疾患、高齢者、メディケア		23609178
要 旨		
目的： ベビーブーム世代が高齢化し慢性疾患の有病率が高まり、それに伴う医療が増大する中で、慢性疾患を持った高齢者の飲酒習慣を知ることは重要である。本研究は、7つの代表的な慢性疾患のうちいずれかを持つ高齢者において飲酒習慣を評価した。		
方法： 2005年の米国のメディケア受給者調査 (Medicare Current Beneficiary Survey) のデータを用いた。アルツハイマー病などの老人性認知症、COPD、うつ、糖尿病、心不全、高血圧、脳卒中の7種類の慢性疾患のうち一つ以上を有する65歳以上の地域にすむ高齢者7,422名を対象とした。アンケートの回答により非飲酒者、National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism (NIAAA) guidelines による適量飲酒者、過剰飲酒者に分類し、検討した。		
結果： 7つの慢性疾患のうち一つ以上を持つ65歳以上の高齢者の30.9%(CI 28.0-34.1%)が飲酒者であり、6.9%(CI 6.0-7.8%)が過剰飲酒者であった。症状が重い群ほど、飲酒者・過剰飲酒者の割合が少なかった。		
結論： 慢性疾患を持つ高齢者の3分の1が飲酒者であり、7%が米国立アルコール症研究所 (NIAAA) のガイドラインの適量飲酒量を越える飲酒者であった。慢性疾患の管理を行う上で、飲酒量を確認することは医療者にとっても患者にも重要である。過剰飲酒者には短い介入の機会を持つことあるいは必要に応じて紹介することも必要であろう。		